

研究助成15人など決定

第35回研究助成を贈呈

矢崎科学技術
振興記念財団

公益財団法人矢崎科学技術振興記念財団(細川興一理事長)は平成29年度の「研究助成金」受領者15人、「国際交流援助」

受領者19人、「特定研究助成金」受領者1人、「矢崎学術賞」受賞者2人を決定した。

同財団は昭和58年、矢崎総業の創立40周年を記念し、科学技術にかかわる研究開発の助成と振興を図る目的から設立したものの。

以来、科学技術の発展を目的として「研究助成」事業を行っており、「新材料」「エネルギー」「情報」の3分野を対象領域とし、研究の独創性に重点を置いて助成対象の研究を選考した「一般研究助成」(助成金200万円)と、とくに若手研究者を対象とした「奨励研究助成」(同100万円)、及び平成12年から同財団が特定したテーマにふさわしい研究を助成する「特定研究助成」(同1000万円)を行っている。また、国際的な学会で論

文や共同研究発表を行なう際の渡航費を「国際交流援助」事業で助成している。

今年度、「一般研究助成」には78件の応募があり、審査の結果、吉川浩史(関西学院大学理工学部准教授の研究「金属有機構造体を利用したエネルギー材料の開発」)をはじめ5件に決定した。

「奨励研究助成」は53件の応募のなかから、小林洋介(室蘭工業大学大学院工学研究科しくみ情報系領域助教の研究「よく聴こえる」拡声システムのための音声合成システムの構築)、馬騰(東北大学材料科学高等研究所助教の研究「バックコンタクト型ペロブスカイト太陽電池の開発」)を含む計10件が決定された。

「特定研究助成」は、同財団が特定したテーマ、領域a「持続可能社会を実現する革新的ものづくり技術、限りある資源やエネルギーの使用を最小とする従来ないモノづくり技術を実現する研

究及び、領域b「生物の機能や構造を情報伝達、自己修復、環境適応、材料創成などの新機能創生に活用して従来にない人工物を実現する研究」に計22件の応募があった。

厳正な審査の結果、今年度は領域aから、福島畜産史(東北大学大学院工学研究科機械機能創成専攻准教授の研究「高密度ナノ配線形成に資する金属含有ブロック高分子のグラフォ・ケミカルエビタキシ」)に決定された。

また、過去に同財団から研究助成を受けた研究者のなかから、優れた成果をあげた研究者に贈っている「矢崎学術賞」は、功績賞は忍久保(洋名古屋)大学大学院工学研究科化学・生物工学専攻教授、奨励賞は大塚(朋廣)理化学研究所創発物性科学研究センター量子機能システム研究グループ研究員に決定した。

また、「国際交流援助」は、19人の受領者となった。